

“「すてきにまちづくり」と言うなら

# 足元の切実な願いに応えてほしい”

北川豊昭議長の「議会レポート」によれば、2月臨時議会の全員協議会で「個人的な反対意見」と私がさも些細な問題を発言したかのように見せようとしています。しかし、議会運営委員会は昨年の2月臨時議会(2月17日・日程15)で改選されており、「改選が遅れて」との北川議長の言い分は「言い訳」にもなりません。議事録で議決された様子を載せていますが、私の辞意なしに変更したこと自体が「条例違反」と指摘しているのです。

さらに、落ち度の無い川副兵右衛門副議長を辞任させようとしたことに対し、私が謝罪なり弁明を求めたことに対して「いちいちコメントする必要ない」とはねつけたもので、これら専横的な態度が議会の公平・民主的な運営を損なうのではないかと危惧されています。

(西澤議員の話)



3店舗が撤退しても「アイム」としてパッカスさん、クリーニング店は営業継続されます。

アイム店舗存続署名

## 40分で80筆

くりやさん最後の12日(トミタ・加賀屋さんは2月末まで)、アイム前で署名の協力を呼びかけたところ、北風が吹く中、40分ほどで80筆の署名が寄せられました。寄せられた声をいくつか紹介します。「今ごろ遅い」との意見があったものの、「ここでの買い物は本当に助かっていたのに」、「道の駅の大きなことより、足元のことに取り組んでほしい」。「わしら貧乏人は、遠いところも行くし、高いもんも買えん。ここで日常のものが買えるよう続けてほしい」、「ここがなくなると日夏まで自転車で行かなアカン」、「多賀の富之尾も閉まったので、ここまでは

山崎町政は「甲良ふるさと交流村構想」に向かって諸準備を進めています。17日には町主催で「すてきにまちづくりシンポジウム」が開かれました。現実の足元で起きている町民の切実な願い、解決が必要な課題に取り組むかどうか、鋭く問われているのではないのでしょうか。

くりやさんの撤退後  
ガラン堂になったアイム内フローア



た。よけいに不便になるなあ」など。引き続きご協力よろしくお願ひします。

## 産廃進出と「せせらぎ」は両立するのか

環境問題を重視すると表明した山崎町長のもとで、プラスチックなどの「固形燃料化」の産廃処理業者が県により営業を許可されたことが判明しました。町の意見書には、「せせらぎのまちづくり」と相反する、という表現はどこにもありません。産廃の町と清流とは相反します。

## 「同和、一般の垣根をつくらないで」

「町行政が同和、一般の垣根をつくることを一日も早くやめてほしい」この声に「法に基づいて運営される行政」はどの程度なのか。今、鋭く問われています。

その他、「すてきに」くらせるためには、貧富の格差、子育て、就職、農業振興、甲良町固有では「盗水」「無法放置土地」などの問題解決がぜひ必要なのではないでしょうか。



## 甲良民報

2007年2月18日 350号  
発行責任：日本共産党甲良町支部  
代表：西澤伸明 甲良町在士463  
Tel.Fax38-4949

Eメール [info@jcp-nobuaki.com](mailto:info@jcp-nobuaki.com)  
のぶあきホームページ  
<http://www.jcp-nobuaki.com/>